

第170回研究会のご案内

日時:平成26年2月20日(木) 15:00~17:00

会場:NKカンファレンス

東京都千代田区神田司町 12-13 神田第4アメレックスビル 9F

*添付地図参照

演題:「がん専門病院の今後の在り方」

講師:土屋了介氏(がん研有明病院 顧問)

1月も終わろうとしている30日に報じられたニュースが、理化学研究所等のチームが作成に成功したSTAP細胞で、ES細胞、iPS細胞に次ぐ「第3の細胞」とマスコミを賑している様です。iPS細胞には“がん化”の課題があるのか？

さて、“がん”は日本人の死因の第1位の疾患であることは周知の事実です。日本人の2人に1人はがんにかかり、男性の4人に1人、女性の6人に1人ががんで亡くなっています。がんによるリスクは年齢とともに高くなるので(女性30才代、男性40~50才代から)超高齢社会を迎えている日本ではがん患者の精神的なケア、抗がん剤の副作用等の管理の重要性が増しています。

しかし、医療技術の進歩によりがんは「不治の病」から「治す病気」へと変わってきたのです。胃がん、乳がんの生存率は7割を超えています。さらに、がん治療は入院から外来へと移行しているのです。がんの主な治療として手術・放射線・抗がん剤の組み合わせ治療があり、8割に抗がん剤が含まれていますが副作用・後遺症・治療費など多くの問題も抱えているのです。

今回の研究会でご講演頂く土屋了介先生は奥仲哲弥先生(山王病院副院長)との共著「がん治療を受ける前に知っておきたい55のこと」の中でがんが発見されてから治療まで、医者が考えるがん治療との向き合い方を総合的に述べられ、①罹患したがんが一番合った病院を選ぶ、②乳がん・胃がん・大腸がん・前立腺がんなら長く付き合える地元の病院を、③国立がん研究センターがベストな選択とは限らない等々に加え、“医療費の問題”も指摘されています。

元国立がんセンター中央病院長として活躍された土屋先生は医学教育の論客としても知られています。ご自身“大腸がん”経験者でもあった土屋先生から最新のがん最前線のお話、医療提供体制にも造詣の深い先生に日本医療の将来に向けた私論などもお聞きしたいと思います。皆様の参加をお待ちしています！

*当日参加希望の方は申し込みいただき、当日受付で3000円お支払いください。

*出欠連絡は2月17日(月)までにご連絡ください(n_mizuno@ivory.plala.or.jp)

*会員の代理参加ができますのでご利用ください。

*当日連絡先:水野(090-1813-7067)、松田(090-8444-4275)

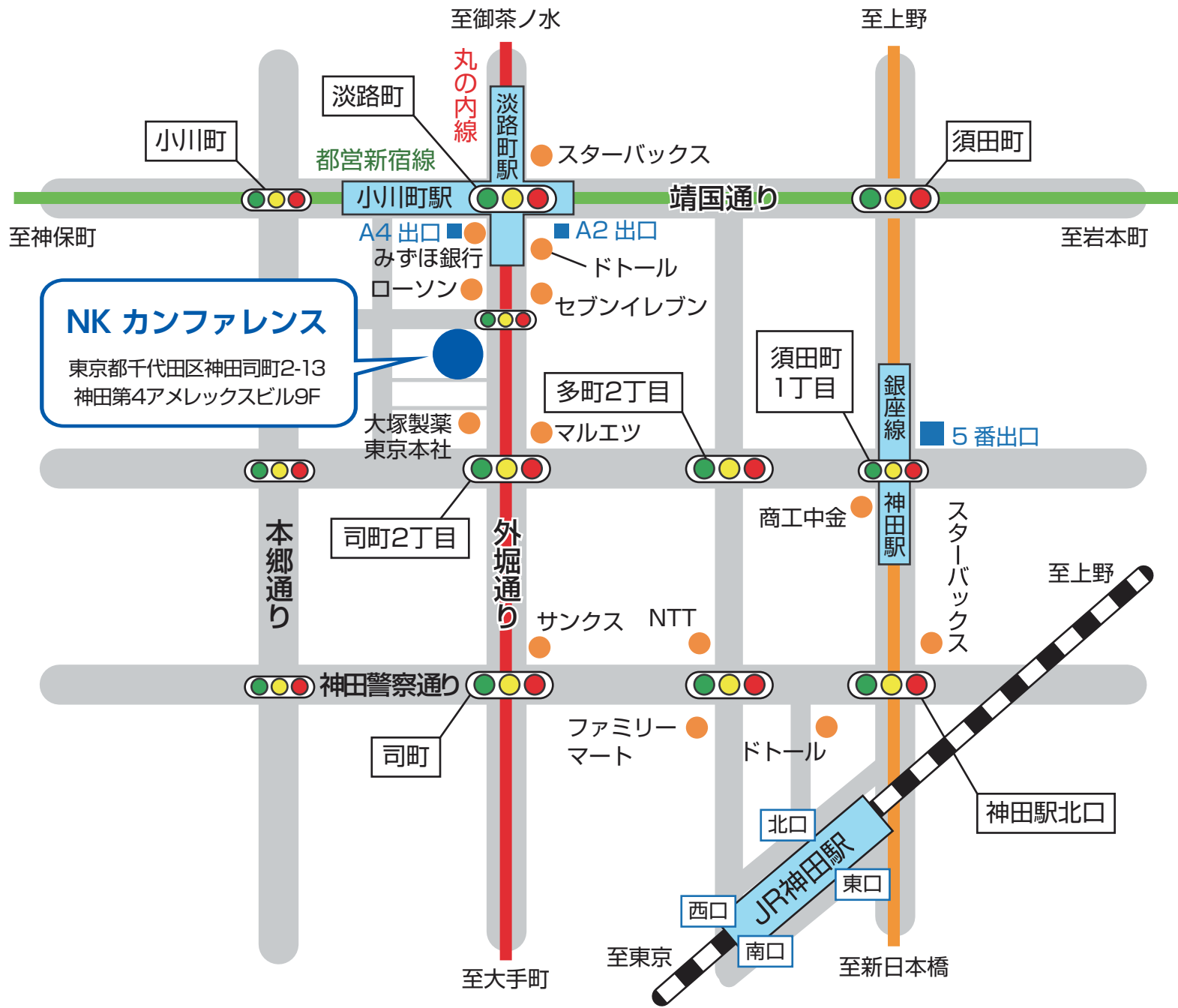
*新規会員(2014年4月~2015年3月)募集中です！

入会金:1万円 年会費:2万5千円

(次回のご案内)3月20日(木) 15:00~17:00

「ススケンが考える医薬品物流について~新物流が新流通をつくる」

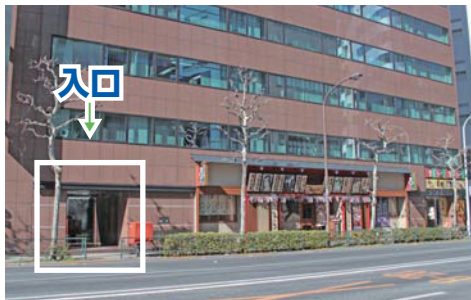
(株)ススケン常務執行役員 浅野 茂氏



NK カンファレンス
 東京都千代田区神田司町2-13
 神田第4アメレックスビル9F



神田第4アメレックスビル外観
 1Fが「土風炉」のビルです



正面向かって左側に入口があります

交通案内

- 「淡路町駅」「小川町駅」 徒歩 1分
- 「新御茶ノ水駅」 徒歩 5分
- 「神田駅」 徒歩 6分